

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回お示しする以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ情報の利用をご了解頂けない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

オピオイド鎮痛薬ヒドロモルフォン塩酸塩の使用実態調査

【研究目的】

ヒドロモルフォン塩酸塩は、海外では古くから使用されている医療用麻薬です。日本では、がんの痛みに用いられる医療用麻薬として2017年6月より販売開始となり、愛媛大学医学部附属病院（以下、当院）においても同年11月より使用が可能となりました。本薬剤の徐放性製剤（ナルサス[®]錠、長く効く薬）には低用量規格の2 mgが存在し、がんの痛みを有する患者さんに対して低用量から開始できることから副作用を最小限に抑えながら安全に疼痛治療が可能と考えています。また、腎臓の機能が悪い患者さんにおいてもモルヒネより忍容性が高く、薬物代謝酵素（CYP）に関連した薬と薬の相互作用の可能性も少ないことが利点として挙げられます。さらに、海外の各種ガイドラインにおいてもモルヒネ、オキシコドンと同様に標準的に使用される薬として位置づけられており、一部のガイドラインでは呼吸困難感に対する治療としても記載されています。一方、①低用量を使用した時または②重度に腎臓の機能が悪い時の有効性および安全性、ならびに③呼吸困難感に対する有効性に関する詳細は不明なところがあります。

そこで今回、当院においてヒドロモルフォン塩酸塩を①低用量（2 mg以下）で使用された患者さんまたは②重度に腎臓の機能が悪い患者さんに対して使用された場合の疼痛状況、副作用発現状況、ならびに③呼吸困難感に対する有用性について調査を行います。

【研究意義】

ヒドロモルフォン塩酸塩を使用している患者さんにおける低用量の有用性、腎臓の機能が悪い時の副作用発現状況、呼吸困難感に対する有用性を検討することによって、投与前からの適切な処方提案を可能とし、患者さんにより安全な薬物療法を提供でき、患者の不利益を未然に防ぐことができると考えています。

【調査の対象となる患者さん】

2017年11月～2019年3月までにヒドロモルフォン塩酸塩が処方された患者さんを対象としています。

【研究方法】

調査の対象となる患者さんの電子カルテより、以下について調査します。

【調査項目】

性別、年齢、身長・体重、がん腫、ヒドロモルフォン塩酸塩および副作用対策薬の用法・用量、血清Cr値、eGFR値、疼痛状況（NRS）、副作用発現状況（悪心・嘔吐、便秘、眠気有無）、呼吸困難感（主訴、NRS、SpO₂、酸素投与有無）

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化します。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 > 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 飛鷹範明

【研究実施体制】

研究機関: 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者: 助教 飛鷹 範明

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号: 089-960-5731

研究分担者:

薬剤部長 田中 守

薬剤師 安永大輝

薬剤師 山下 登

薬剤師 伊賀久美

医師 藤井知美(臨床腫瘍学、緩和ケアセンター)

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いて欲しいという方は、下記の連絡先までお申し出下さい。また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は、下記の連絡先まで連絡をお願いします。他の患者さんの個人情報の保護および知的財産の保護等に支障がない範囲でお答え致します。

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 飛鷹 範明

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号: 089-960-5731